様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 5 月 23 日現在

機関番号：１３３０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：20530234
研究課題名（和文）　CFA フランと旧仏領西アフリカの経済発展：資源ブーム時の為替切り下げ効果を中心に
研究課題名（英文）　The CFA Franc and the Economic Development of WAEMU Countries: The Effects of the Devaluation during the Resource Boom.
研究代表者
正木　響　（MASAKI Toyomu）
金沢大学・経済学経営学系・准教授
研究者番号：30315527

研究成果の概要（和文）：
西アフリアの経済通貨統合の制度と現在の動きについて調査するとともに、CFA フランと旧仏領西アフリカの経済発展の関係を明らかにするために、西アフリカの非 CFA フラン圏と CFA フラン圏の実質実効為替レート 1999-2008 期間について計算し、比較することを試みた。CFA フラン圏は、物価が低く抑えられていることから、資源ブーム期間においても、予想以上に実質実効為替レートは抑えられていることが明らかとなった。切り下げの効果については、現在も研究継続中である。

研究成果の概要（英文）：
This research was conducted in order to reveal the effects of the West African Economic Monetary Union (WAEMU) and its common currency, the CFA franc, on WAEMU member countries. First, we examined the historical background of the WAEMU and their neighbouring countries. Second, in order to reveal the relationship between these countries institutions and their economic development, we calculated their real effective exchange rate (REER), nominal effective exchange rate (NEER), and effective real price index (ERPI) for the period 1999-2008, and compared the results. We found that these values for WAEMU members tend to be more stable than those of non-WAEMU members. Against our expectations, the REER of WAEMU member countries had not appreciated because their prices were well controlled. Regarding the effects of devaluation on the WAEMU countries, our investigation is still in progress.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：経済発展論、世界経済
科研費の分科・細目：経済学・経済政策
キーワード：経済発展

１．研究開始当初の背景

CFA フランとは、植民地時代にフランスによって創設され、現在も、旧フランス領サブアフリカ諸国の複数国で使用されている共通通貨である。正確には、アフリカ金融共同体フラン（Communauté Financière Africaine）と中部アフリカ金融協力フラン（Coopération Financière en Afrique Centrale）の２種類の CFA フランがあり、それぞれの通貨経済共同体が、西アフリカ経済通貨同盟（仏）UEMOA, 英）WAEMU）および中部アフリカ経済通貨共同体（CEMAC）である。この CFA フランは、周辺諸国と通貨統合を行うのみならず、2002 年１月まではフランスフランに、それ以降はユーロに一定レートで固定され、さらに、政治的理由から、為替レートの維持がフランス政府によって保証されているところに特徴がある。

アフリカ諸国の多くは限られた数の換金作物・天然資源に外貨収入の大半を依存しており、それゆえに、一次産品の世界市場価格低下に極めて脆弱な経済構造に立脚していることはよく知られている。他方で、一次産品価格が急騰している時には、外貨収入や GDP が増大し、バブル経済が引き起こされるのであるが、結果的にオランダ病（特定の一次産品以外の貿易財部門の縮小、為替レートの増価から非貿易財部門の拡大）に陥りやすく、当該国の一次産品依存をさらに助長する傾向にある。この問題を緩和するためには、資源ブーム時には為替レートの適度な切り下げ、投資の抑制が望ましいとされている。しかし、当該地域は、上述のようなフランスとのパターナリズム（家父長主義）関係にあるため、為替レート切り下げという政策手段は保持していない。

２．研究の目的

西アフリカの経済通貨統合の制度や近年の展開を明らかにするとともに、CFA フラン圏の経済発展を当該地域の共通通貨 CFA フランとの関係から分析する。

３．研究の方法

(1)CFA フラン圏の通貨統合および地域統合の動きをまとめる。
(2)CFA フラン圏の周辺にある旧英国領アフリカとの通貨統合（西アフリカ通貨圏）の動きをまとめる。
(3)コートジボワール共和国が資源ブームに沸いた 1978 年のデータを用いて CGE モデルを構築し、このときに為替の切り下げ、投資抑制といった政策手段が当該国の経済構造の多様化に与える影響を分析する。
(4)加盟国ごとの実質実効為替レートを計算して名目為替レートとの乖離や競争力の改善・悪化、域内格差の是正の成否などについても検証する。

４．研究成果

CFA フラン圏の制度および西アフリカの経済通貨統合の動きおよびその意義については、既存研究を整理し、下記の雑誌論文①、③、④にまとめた。なお、①はアジア・アフリカ研究所創立 50 周年記念学術懸賞論文入選という形で評価していただいた。

CFA フラン圏と周辺の非 CFA フラン圏の実質実効為替レートを 1999 年から計算し、さらに名目実効為替レートと実効相対価格比に分解して検証したところ、CFA フラン圏は、物価が低く抑えられていることから、資源ブーム期間においても、予想されていた程には、実質実効為替レートが増価していないことが明らかとなった。また、同様に周辺の非 CFA フラン圏諸国と比べたところ CFA フラン圏の為替レートが相対的に増価しているように感じるのは、むしろマクロ経済管理がうまく実施されていない非 CFA 圏諸国の為替レートが相対的に減価していることが大きな要因であることも明らかとなった。これについては学術論文の②および英文論文”Real Effective Exchange Rates and Two Monetary Unions in West African Countries:1999-2008”（英文査読付き論文に投稿中）にまとめるとともに、学会発表を４度行った（学会発表の③、④、⑤、⑥)。

また、2008 年－2009 年度期間で CGE モデルを構築して、為替の切り下げ効果を分析することを試みたが、CGE モデルを構築するためには、誤差脱漏の多い当該地域のデータをかなり無理な形で整合性のとれたものにする必要があること、また、データ制約から現実経済をかなり抽象化、モデル化する必要があることが判明した。当該地域の経済の実態を知る者として、そうしたヴァーチャルなモデルから得られた結論が、経済理論として何がしかの示唆を与えるものであっても、当該地域の具体的な経済発展を考える際に説得力のある結論を導き出すことができるのか疑問を持つに至り、これについては中断した。

代替の策として、CGE モデルではなく、算出された実質実効為替レートが各国の輸出入に与える効果を分析することを行っている。これについては、研究期間中に完了することができず、現在も継続中である。一定の成果が出せるよう、今後も努力を続けたい。

上記以外にも、非専門家の人々を対象とした書籍にアフリカ大陸における地域経済統合の取り組みの現状とその意義、西アフリカの地域経済統合の歴史背景を明らかにするための論文を寄稿した（図書の①、②、③)。また、財務省で講演させて頂く機会ももった。このように研究内容を広く社会に還元するとともに、同じテーマに関心を持つ研究者の学会発表コメンテーター（その他の①）や、類似のテーマについて投稿された学術論文の査読者としての役割も果たした。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計４件）

① 正木響「グローバリゼーションと西アフリカのリージョナリゼーション－植民地時代の遺産を乗り越えて－」『アジア・アフリカ研究』第 51 巻第 4 号、2011 年掲載決定、査読有。

② 正木響「CFA フラン圏の輸出競争力－1999-2006 期間の実質実効為替レートからの検証－」『国際開発研究』(国際開発学会)第 19 巻第 2 号, 2010 年、101-118、査読有。

③ 正木響（書評）The CFA Franc Zone (Anne-Marie Gulde and Charalambos Tsangaride ed., IMF, 2008),『アジア経済』、第 50 巻第 7 号、2009 年、67-71、査読有。

④ 正木響「西アフリカの経済統合の成り立ちと現状」『金沢大学経済学論集』第 29 巻第 2 号、2009 年、325-361、査読無。

〔学会発表〕（計６件）

① MASAKI, Toyomu, "Asian Experience and Africa's Economic Development:

African Countries, Can they fly following Asian Geese?". African Studies Association, 53rd Annual Meeting, 2010.11.18, San Francisco, USA.

② 正木響 「西アフリカの経済通貨統合の現状と課題：中継貿易からの示唆」日本アフリカ学会第47回学術大会、2010.05.29、奈良県立会館、奈良県。

③ 正木響 「西アフリカ諸国の通貨統合－実質実効為替レート（1999-2006）のクラスター分析を通じて－」国際経済学会第68回大会、2009.10.18、中央大学、東京都。

④ MASAKI, Toyomu, "Monetary Integrations in Western Africa and the Real Effective Exchange Rates 1999-2006" Annual Conference 2009, Center for the Study of African Economies, Oxford University, 2009.3.23, UK.

⑤ 正木響 「西アフリカの通貨統合と実質実効為替レート」日本国際経済学会中部支部定例研究会、2008.12.6、名古屋市立大学、愛知県。

⑥ 正木響 「UEMOA諸国の実質実効為替レートと貿易相手国1999-2006」日本アフリカ学会第45回学術大会、2008.5.25、龍谷大学、京都府。

〔図書〕（計３件）

① 正木響、ミネルヴァ書房、「アフリカ経済のグローバル化とリージョナル化」、北川勝彦・高橋基樹編『現代アフリカ経済論』（印刷中）。

② 正木響、晃洋書房、「英領ガンビアの対仏割譲交渉とその社会経済史的背景」、井野瀬久美恵・北川勝彦編『アフリカと帝国』第５章、2011年、117-137.

③ 正木響、明石書店、小川了編『セネガル、カーボヴェルデを知るための60章』2010年3月、72-94、111-119。

〔その他〕（計３件）

① （学会発表コメント）正木響、Gilles Dufrénot(Aix Marseille 2) and Kimiko Sugimoto(Osaka Gakuin University). "Pegging the future West African Single Currency: A counterfactual analysis に対するコメント、日本国際経済学会第69回全国大会、2010.10.16 、大阪大学。

② （講演）正木響、「アフリカ経済のグローバル化とリージョナル化－西アフリカの経済通貨統合を中心に－」、2010.03.17、財務省総合政策研究所ランチミーティング、財務省、東京都。

③ ホームページ
http://www.hat.hi-ho.ne.jp/rtsound

６．研究組織

(1)研究代表者

正木　響　（MASAKI Toyomu）
金沢大学・経済学経営学系・准教授
研究者番号：30315527

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし